

第25回全国小学生ソフトテニス大会に出場

ふたまた ゆな

二俣 柚菜さん



— PROFILE —

ふたまた ゆな(門屋・10歳)

第一小学校5年生。兄は陸上、妹はソフトテニスに励むスポーツ兄弟。高校生との練習にも挑戦し、打ち返せるほどの技術や力強さをもつ。

「浜岡ソフトテニスジュニア」に所属する第一小学校5年生の二俣柚菜さん(門屋)が、昨年11月に開かれた静岡県予選で準優勝し、3月29日から31日にかけて千葉県で開かれた「第25回全国小学生ソフトテニス大会」の小学4年生以下ダブルスの部に出場した。

努力で掴んだ日本一への舞台

ソフトテニスを始めたのは小学1年生のとき。兄の送迎で訪れた陸上クラブの隣でプレーする選手の姿に憧れを抱いたことがきっかけである。競技を始めてからは、メキメキと頭角を現し、小学2年生の頃には4年生とペアを組んでいた。現在も2学年上の選手とペアを組み、経験を重ねている。

所属クラブの練習は週2回。それだけでは満足せず、市内外に足を運び自主練習を重ね、週4〜5回のペースでラケットを握る。

丸尾雅史コーチは「プレー中に落ち着いて戦況を見ることができる選手。ペアに『次はこうしよう』と声をかけるなど、自ら試合を組み立てる

力がある」と評価する。上級生とペアを組んできた経験が、その冷静さと判断力につながっている。

得意とするのは、相手の隙を見逃さずに打ち抜くストレートのコース。「ポイントが決まると気持ちいい」と笑顔を見せる一方で、「うまくいかないときは膝の使い方がよくない」と自らを分析し、向上心の高さもうかがえる。

努力と冷静さで全国へ

大会によっては年齢制限があるため、本大会では、藤枝市のクラブに所属する同年年の選手と9月からペアを組んだ。活動拠点が異なるため、合同練習は週1回ほど。限られた時間の中で互いの呼吸を合わせてきた。

2月に出場した東海大会ではベスト8入り。全国大会に向けて手応えをつかんだ。柚菜さんは「まずは予選リーグを勝ち上がり、決勝トーナメントに進みたい。一試合一試合を大切にプレーしたい」と力強く意気込む。

積み重ねてきた努力と冷静な判断力を武器に、柚菜さんは全国の舞台へ挑む。